

第101回 日本電気協会社員総会
高松開催 特別号

若手実業家と語り合う四国の今と未来

「サステナブルな島」を目指して 私たちがつくる「四国の将来像」



国の特別名勝「栗林公園」で語られた「四国の将来像」

四国経済連合会(会長 佐伯勇人・四国電力会長)は4月に地域ビジョン「四国が目指す将来像」を発表しました。人口減少や高齢化といった日本の課題先進地域から転じて、次代の日本の有り様を先取りするため、「適度なサイズ感の「サステナブルな島」をキャッチフレーズに、実際に行っていくアクションテーマが掲げられました。この策定に当たっては約40人の若手実業家らへのヒアリングや意見交換会が行われました。その中から四国4県から1人ずつ、若手実業家に、国の特別名勝である「栗林公園」に集まってもらい、佐伯会長とともにそれぞれが目指す将来像に合わせ、「四国の将来像」を語り合ってもらいました。



TOSHIBA

将来の エネルギーを デザインする





佐伯 勇人氏
四国電力会長、四国経済連合会会長

1977年四国電力入社。2015年社長就任。社長時代はスピード感のある「普通の会社」を指向し、新規事業の立ち上げやベンチャーへの出資を推進。2019年から現職。今年4月に四国経済連合会で四国の地域ビジョンとなる「四国が目指す将来像」を発表した。愛媛県出身。



廣瀬 圭治氏
アニメ『言葉は愛情を運ぶ』プロデューサー

2005年大阪でデザイン事務所キネトスコープ社を起業。企業ブランディングやプロモーションを手がけている。一方、2012年に神山町にコトラーシ「神山しずくプロジェクト」を発足。町産物を使ったエシカルなプロダクトをSHIZOブランドとして製造販売。グッドデザイン賞や国際デザイン金賞、昨年は内閣府の準グランプリも受賞。兵庫県出身。



藤田 徳子氏
アニメ『言葉は愛情を運ぶ』プロデューサー

実家は130年以上続いた老舗劇場。大学卒業後は、広告代理店に勤務。1998年にリアルプロデューサー、フェアリー・ティールを起業。直島、高松城跡、栗林公園などで史上初の結婚式をプロデュース。G7サミットをはじめ国産パーティーなどを文化財や歴史の建造物で仕掛けるプロデューサー。岡山県出身。



町田 美紀氏
アニメ『言葉は愛情を運ぶ』プロデューサー

2001年独立。2007年夫と一級建築士事務所 and を東京で設立。デザインやプロモーションも含めてブランディングに携わる。2011年高知市にUターン。高知では食と情報を組み合わせた「こうち食への通信」(現えひめこうち食への通信)編集や「高知おせかい協会」なども共同運用。5月からシェフインレレジデンスを組み込んだシェアキッチンスタジオを運営。高知県出身。



森本 健二郎氏
アイムービック代表取締役社長

2003年にウェブページ制作で起業し2005年アイムービック設立。2016年にAmazon Web Serviceテクノロジーパートナーに認定され、AWS環境でのウェブサイトシステム開発、保守運用などのほか、全国のCATV関連サービスやスマホ向け介護情報アプリなどを幅広く開発。福島県出身。

豊かさは地方にあり

佐伯 勇人氏
「豊かさは地方にあり」として、四国の外で経験を積みながら、また四国事業拠点を移したきっかけと現在の事業を紹介してください。

佐伯 勇人氏
「豊かさは地方にあり」として、四国の外で経験を積みながら、また四国事業拠点を移したきっかけと現在の事業を紹介してください。

おもてなしの極み

藤田 徳子氏
「おもてなしの極み」として、神山町にサテライトオフィスを開設しようとしたところ、地元の人に移住を勧められた。家族と築150年の古民家に移り住み、その離れにオフィスを設けました。

藤田 徳子氏
「おもてなしの極み」として、神山町にサテライトオフィスを開設しようとしたところ、地元の人に移住を勧められた。家族と築150年の古民家に移り住み、その離れにオフィスを設けました。

地域ハンディを感じず

町田 美紀氏
「地域ハンディを感じず」として、高知に18歳まで高知で育ち、その後15年間東京で過ごし、高知に帰ってきた。実は人と人の関係が近いことを窮屈に感じていた高知が大嫌いで、理想の家をつくるのが夢で、理想の家を目指して、幼少の頃から近くに住んで、自然と興味を持っていました。

町田 美紀氏
「地域ハンディを感じず」として、高知に18歳まで高知で育ち、その後15年間東京で過ごし、高知に帰ってきた。実は人と人の関係が近いことを窮屈に感じていた高知が大嫌いで、理想の家をつくるのが夢で、理想の家を目指して、幼少の頃から近くに住んで、自然と興味を持っていました。

5月に新事業開始

佐伯 勇人氏
「5月に新事業開始」として、高知にはありましたが、高知にはありません。新しいもの好きで、やってみようという気持ちを持って、人々が喜んでくれる人を受け入れてくれる風風があります。

佐伯 勇人氏
「5月に新事業開始」として、高知にはありましたが、高知にはありません。新しいもの好きで、やってみようという気持ちを持って、人々が喜んでくれる人を受け入れてくれる風風があります。

家族婚の流れに

佐伯 勇人氏
「家族婚の流れに」として、高知にはありますが、高知にはありません。新しいもの好きで、やってみようという気持ちを持って、人々が喜んでくれる人を受け入れてくれる風風があります。

佐伯 勇人氏
「家族婚の流れに」として、高知にはありますが、高知にはありません。新しいもの好きで、やってみようという気持ちを持って、人々が喜んでくれる人を受け入れてくれる風風があります。

次世代へ豊かな森つなぐ

香川の宝で結婚式を

香川の宝で結婚式を

MITSUBISHI ELECTRIC advertisement for Net Zero. Includes text: 時代が変わる。エネルギーが変わる。でも、安定供給は変えない。MISSION NET ZERO. 三菱重工グループは、グローバル社会全体のNet Zeroの実現に貢献していきます。

風の時代”の経営に

個を生かす地域づくり

から県外の人が多かったのですが、その傾向がより「層」という感じ。大勢を武場に招いて、という以前のようなスタイルから、家族や親しい友人だけで旅行を兼ねて「家族婚」という流れに変わってきています。今後、家族だけで少人数の結婚式が増えることは間違いなく、四国は「ウェディングツーリズム」のメッカになるのではないのでしょうか。すでに、他地域の観光地や施設からも、プロデューサーとして声を掛けていただいています。

個性生かすチーム

佐伯▼町田さんはいかがですか？
町田▼当社はデザインと建築に主に携わっていますが、夫が担当する建築は、コロナ禍で1年間止まりましたが大変でしたが、逆に私が担当するデザインやウェブ制作は、「この時期だからこそ見直したい」というお客さままで多忙になりました。

コロナ禍がきっかけでいうと、私は20年来、「猛獣使い」といわれつつウェブやデザインの仕事をクリエイターの得意分野や個性を生かしたチームで行って来ました。それを高知で、同じ形の仕事チームを組もうとしています。

佐伯▼どういう仕事チームですか？
町田▼主婦の「すきま時間」を生かしたチームです。主婦は、能力やキャリアがあるにもかかわらず、時間的制約から外に働きに出られない人が多い。コロナ禍が追い打ちを掛けました。そうした主婦の「すきま時間」を活用し、仕事を創り出すのです。先生に向く人は先生を、翻訳に向く人は翻訳を、と今まで「なかった仕事」を創造していく仕組みです。小さなニーズを広げて、ほんの少しですが変化に近づきたい。

佐伯▼東京に出て行った時と比べて高知は好きになりましたか？
町田▼今は、以前嫌いだった部分に支えてもらっています。頑張ってきたと地域の人々が応援してくれているのを感じます。全く縁がなかった人が仕事の相談に来てくださることも増えました。すべてが好き、とはいきませんが楽しんでもらっています。

「市場創造」に変化

佐伯▼廣瀬さん、コロナ禍の影響は？
廣瀬▼ほとんど受けていません。昨年2021年に新店舗をオープンしましたが、実はもともと2020年にオープン予定でした。コロナ禍があったことで、計画を見送り、本質的に大事なことを店舗に反映しようと計画を練り直し、それを実現することで、軌道に乗りました。売上は前年度比で200%を超えています。「本質」が分かるお客さま、店舗で実物に触れてから購入したい、というお客さまが増えました。

佐伯▼大きな変化ですか？
廣瀬▼ウクライナ危機という有事で、物資や材料費のコストが急上昇。インフレが始まりました。四国が優位性を持つものは「資源」。足元の「資源」を価値化して、地域性のあるサービスや製品として提供できれば、世界中から注文が入ります。東京の販売チャンネルに頼らず、僕らが直接お客さまとつながる。「マーケティング」から「マーケティング」へ。結果が出て、支持層が出ていくことこそ、大きな変化です。

「変化」している

佐伯▼コロナによって、価値観が変化する中、みなさん、ビジネスの「本質」を極めていっています。オンラインによって、四国の地域的なハンディが緩和されつつあります。ITの森本さんには、メリットは大きいのでは？
森本▼廣瀬さんの言うような価値観の変化は感じます。私は外部や内部の環境が自分たちと想像していたこととずれていく時に「苦労」を感じると考えます。私自身はそのずれをあまり「苦労」とは感じないタイプです。私は運動が苦手だったので、ある転校先の最初の授業、ドッジボールでヒーローになった経験が大きい。気の持ち様、自分が変化することですね。

同様に弊社も、環境に合わせて変化することで前に進みます。社員が「気が辞めるといって変化をきっかけに、リソースを社外に持つべき」と考え、ペトナムにエンジニアリング会社を設立しました。コロナをきっかけに営業拠点を閉じて、東京から撤退しました。逆に今、四国4

県に開発拠点を増やそうとしています。

佐伯▼拠点を増やすのは大変では？
森本▼最近の流行でもある「メタバース」が解決します。拠点を4つ置くと、従来はそれぞれに責任者を置く必要がありました。今は、「メタバース」によって、仮想オフィスのワンフロアで、拠点が4つでも1カ所だけで働いているような環境が実現できます。インターネットを活用して拠点を広げていくことが容易になっています。

精神的な豊かさを求めて

佐伯▼私はサラリーマンとして、みなさんのように自由に仕事をできなかったこともありました。一方で、電力会社の社員として電力の安定供給を支え、地域の産業や生活を支える電気事業の一翼を担ったことに誇りを持っていました。みなさん、事業に満足していますか？

廣瀬▼事業には満足していません。金銭的に成功しているか、という私には当てはまらない。藤田さんがいう「本質」を追求する時代に入ったからこそ、私たちはうまくいっていないと見られるが、私たちが満足している。私たちがいう「本質」は、少人数で価値観はごく少数派です。

藤田▼最近「土の時代から風の時代」といわれます。肩書のある人の意見が主流だった土の時代から、私のとびな発言も受け入れられる風の時代になった。私は「衆知命(自己修練)し自分の天命を知り、天職を得ることですべてを楽しむことができない」を旨に行動しています。この言葉を頂いてからは、どんな苦難でも受容し、楽しく幸せに事業ができています。

町田▼私は、理想の家を造りたい、と建築家になろうとして、挫折しました。今振り返ると、好きな人たちが仕事を「場」、空間をつくりだしたのだと。挫折があったおかげで、デザインという仕事に出会えた。デザインが好きなのは、デザインが得意だ。向いている仕事だから続けられる。それが幸せだし、その中でさらにノースト



「資源」価値化し世界へ 自ら変化し豊かな四国を 賛同集めて息長く活動

佐伯▼皆さんが考える「四国の将来像」をお聞かせください。今後20年くらい、四国をどうつくり込んでいきたいと思います。みなさんの事業の将来も、森本さん、日本が成長している時代、都市計画があったように、人口減少の時代にもそういった計画は必要。「個の時代」となる中、「将来像」は価値があると考えます。大きな課題が出てきて、自分たちが変化していくこと。自ら変化していくと思えば、豊かな四国にならなくともいいです。

町田▼ゼロから創り出すのではなく、住んでいる人の個性、資源などの魅力を生かしていくことが重要。そのために、働き方や学び方を変えていかないといいない。多様性を生かす仕組みや教育に変えていくことで個性を生かせる四国になる。私ができることは限られていますが、「個を生かせるコミュニティ」をつくることを目指しています。四国連を通して、多様性を受け入れる場所を広めてほしいし、変化するきっかけをつくってほしい。

藤田▼人口減少に伴って事業は縮小するけれども、利益は大きくしていきたい。経済的な利益だけでなく、精神的な豊かさを提供できる事業づくりが目標です。「将来像」の序文に佐伯会長が書いている「量から質へ」の転換同様、資源、中身、コンテンツ、これを魅力的にアピールしていくのが、私のプロデュースという仕事。魅力を発信していくことが使命だと思っています。

廣瀬▼経済の本質は「経世済民」。現在、資本家や投資家に向けた資本主義から国民のための資本主義、公的資本主義の時代に移ってきました。「本来あるべき資本主義」の姿に、どう我々がパラダイムシフトを起こしていくか。四国連ですべてを実行に移すことはできないと思いますが、「将来像」の中には、そういうことがちりばめられている。

現在、資本主義も資源も取り返しのつかないぎりぎりの所にいます。サステナブルなビジネスや環境を本気で実現するのならば、私は応援し、参画や協力したい。最初に日本と地方を変えていく、という四国であってほしいと願っています。

佐伯▼ありがたうございました。四国の将来に対して、問題意識を持っている人たちはたくさんいます。四国連は小さいネットワークから息長く、地に足の着いた活動で、四国を良い方向に変えるきっかけをつくっていきましょう。四国連は「四国が目指す将来像」に対して賛同してもらえ、人々に門戸を開いています。今後もこうした活動を続けていきたいので、よろしくお願いします。

電気の先へ。暮らしの中へ。 四国電力グループ

四国電力株式会社 取締役社長 長井 啓介 〒760-8573 香川県高松市丸の内2番5号	四国電力送配電株式会社 取締役社長 横井 郁夫 〒760-8610 香川県高松市丸の内2番5号
株式会社 四国総合研究所 代表取締役社長 松本 真治 〒761-0192 香川県高松市屋島西町2109番地8	株式会社 四電五 代表取締役社長 関谷 幸男 〒761-8565 香川県高松市花ノ宮町2丁目3番9号
株式会社 四電技術コンサルタント 代表取締役社長 野村 喜久 〒761-0121 香川県高松市牟礼町牟礼1007-3	四電テック株式会社 SHIHEN TECHNICAL Corporation 代表取締役社長 小嶋 唯司 〒764-8507 香川県仲多度郡多度津町桜川二丁目1番97号
テクノ・サクセス株式会社 取締役社長 久保 有一郎 〒761-0113 香川県高松市屋島西町2109番地8	STNet 取締役社長 小林 功 〒761-0195 香川県高松市春日町1735番地3
ケーブルテレビ徳島株式会社 代表取締役社長 梅田 真司 〒770-0855 徳島県徳島市新蔵町1丁目11番地	四国航空株式会社 取締役社長 片岡 佳英 〒760-0024 香川県高松市兵庫町8番地1(高松兵庫町ビル)
伊方サービス株式会社 代表取締役社長 公受 弘充 〒796-0421 愛媛県西宇和郡伊方町九町宇浦安1番耕地1349番1	坂出LNG株式会社 代表取締役社長 山内 浩二 〒762-0065 香川県坂出市番の州緑町1番地6
四電 エンジニアリング株式会社 取締役社長 原田 雅仁 〒761-8541 香川県高松市上之町三丁目1番4号	四国計測工業株式会社 取締役社長 寺井 昇二 〒764-8502 香川県仲多度郡多度津町南鴨200番地1
株式会社 ケーブルメディア四国 取締役社長 藤網 郁夫 〒760-0017 香川県高松市番町1丁目6番8号 高松興銀ビル11階	四電 エナジーサービス株式会社 取締役社長 高橋 克己 〒760-0050 香川県高松市亀井町7番地9
四電ビジネス株式会社 代表取締役社長 谷澤 祐一 〒760-8538 香川県高松市亀井町7番地9	

順不同

制作発行：電気新聞四国支局 〒760-0033 高松市丸の内2-5-5(三井ビル本館)